



特集 **マイナンバーカードの普及・利活用**

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.50 September.2021

contents

-
- 巻頭随想
- 市町村リレー まちづくり夢づくり
- 苦言提言
- 地域シンクタンク
- 市町村の元気印



7. 富士御室浅間神社



5. 河口浅間神社



3. 精進湖



1. 河口湖



8. 吉田口登山道
(二合目・富士御室浅間神社本宮)



6. 船津胎内樹型



4. 本栖湖



2. 西湖

machijim on

お問い合わせ先

富士河口湖町教育委員会生涯学習課文化財係

住所 山梨県南都留郡富士河口湖町船津1700

電話 0555-72-6053

メール syougai@town.fujikawaguchiko.lg.jp



シリーズ ま・ち・自・慢 富士河口湖町

Fujikawaguchiko-Town

世界文化遺産富士山の8件の構成資産・構成要素から 文化的価値を身近に楽しめる町

世界文化遺産富士山は、信仰の対象・芸術の源泉という富士山の文化的価値が世界的に評価されて登録されました。富士河口湖町には、構成資産・構成要素となっている文化財が8件所在します。

古代の富士山の鎮火祭祀のために建立されたとされる河口浅間神社、山岳修験の拠点として富士山中最古の社と伝えられる富士御室浅間神社（二合目本宮・里宮）、江戸時代の富士講の信者が登拝に際して身を清めた船津胎内樹型、同じく富士講が麓の八海を巡礼した河口湖、西湖、精進湖、本栖湖があり、富士信仰の歴史の真髄を町内で巡ることができます。

また、美しい容姿から多くの芸術作品が生み出されてきた富士山は、現在も多くの人々に感銘を与え続けています。湖越しの富士山、周囲を取り巻く御坂山地から仰ぐ富士山など、富士河口湖町では、さまざまな視点から富士山の絶景を堪能できます。

「世界遺産のふるさと 富士河口湖町」としてまちづくりを推進し、世界文化遺産富士山の価値の要素を身近で気軽に楽しむことができる当町には、五感で文化に親しむ施設が充実しています。

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.50 September.2021

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.50 September.2021

- まち自慢 富士河口湖町
- 02 巻頭随想 「ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる」の実現に向けて
都留市長 堀内 富久
- 04 市町村リレー 大月市
- 08 苦言提言 森と共に生きる豊かなまちづくり
南都留森林組合 地域おこし協力隊
辻 康子
- 09 特集「マイナンバーカードの普及・利活用」
- 10 特集1 マイナンバーカードの現状をはじめ今後の利活用
- 14 特集2 マイナンバーカードの普及・利活用について
- 17 特集3 マイナンバーカードの普及促進と利活用の拡大に向けて
- 20 「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて
- 22 地域シンクタンク
- 24 市町村の元気印
- 26 自治 Q & A
- 29 市町村調査研究事業
- 32 がんばっていま～す。
- 34 はつらつ!!市町村職員
- 36 市町村振興協会たより
時の人
編集後記



■表紙写真 「サプライズ花火」

昨年、市川三郷町では、医療従事者への感謝やさまざまな人へのエールの気持ち、一刻も早いコロナの収束を願ってサプライズ花火が打ち上げられました。表紙は、神明の花火特別番組の際に打ち上げられた花火の様子です。

盛大な花火大会が開催できるようになることを願います。【市川三郷町提供】

「ひと集い 学びあふれる

生涯きらめきのまち「つる」の

実現に向けて

堀内 富久 都留市長



堀内 富久 (都留市長)

PROFILE

昭和24年 1月22日生まれ(72歳)
昭和42年 3月 山梨県立谷村高等学校(現 興譲館高校)卒業
平成19年 4月 山梨県議会議員初当選
平成25年12月 都留市長初当選
令和 3年 9月 現在に至る(2期目)



官民連携によるサテライトオフィス「THE FOREST」

私が市政の舵取りを任せられ、間もなく2期8年が経過しようとしています。平成28年に策定した第6次都留市長期総合計画（以下、「長期総合計画」という。）の基本構想に定めた「ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる」の理念の下、主要事業をリーディング・プロジェクトとして位置づけ、施策を展開しています。

生涯活躍のまち・つる事業の推進

市長就任以来、市の最重要施策に位置づけ取り組んでまいりました「生涯活躍のまち・つる」事業は、まず「単独型居住プロジェクト」として、旧雇用促進住宅を市が取得し、公募事業者が改修したサービスパ付き高齢者向け住宅「ゆいまゝる都留」と、市の下谷交流センターが令和元年にオープンしました。首都圏などからそこに移住された多くの方々が生きていきいき働き、サークル活動にも参加するなど多方面で活躍しています。

また、「複合型居住プロジェクト」として、都留文科大学の隣接するエリアに、民間事業者によるサービスパ付き高齢者向け住宅、都留文科大によるセミナーハウス・留学生向けの学生受け入れ施設、また、市による子育て支援機能、カフェや働くためのワーキング機能等を有する地域交流拠点を整備することとしており、この一帯が、多世代・多文化の交流促進を図る複合的なエリアとなる予定です。今後とも、全国のトップランナーとして、市民全体の豊かな暮らしに繋げるよう鋭意推進してまいります。

道の駅つるを中心とした地域活性化

平成28年にオープンした「道の駅つる」は、地産地消の推進や魅力ある地場産業の創出の拠点として、本市の農林産業をはじめとした産業振興の中心となっており、国土交通省による「重点道の駅」にも選定されています。

特に、地域おこし協力隊を通じ、当地の養豚場の事業継承に取り組んだブランド豚「富士湧水ポーク」は、上質な脂と肉質から、市民はもとより他県からも購入希望があり、令和2年度にはふるさと納税の返礼品で、全国ランキングで上位となるなど、好評を博しています。また、「高収益作物導入事業」において、郡内地域では困難とされてきた果樹栽培の普及に取り組んできました。が、昨年の夏には、本市で栽培されたブドウとモモが初めて道の駅に出荷されるなど、徐々に取り組みの成果が見えてきており、本市の農業が持つ可能性に胸をふくらませています。

安全・安心のまちづくり

「セーフコミュニティ」

長期総合計画の中期基本計画（平成31年度～令和4年度）では、市民一人ひとりの防災・防犯意



都留市と富士急行株式会社とのSDGs推進に係わる連携協定締結式

識が高く、地域の連携によって安心して暮らしていける安全・安心なまちを目指し「事故やけがは偶然の結果でなく、原因を分析することで予防できる」という理念に基づいた国際認証である「セーフコミュニティ」の推進に取り組んでいます。市内の交通事故や犯罪件数等の統計的な分析をベースに、市職員や関係機関のみならず、市民との協働により各種の事業に取り組んだ結果、本年8月、全国の自治体では17番目、山梨県内の自治体では初となる「セーフコミュニティ」の国際認証を取得することができました。認証をもってこの活動を終わらせることなく、引き続き市民の皆さまとともに、安全で安心できるまちづくりの更なる実現に向けて取り組んでまいります。

SDGs（持続可能な開発目標）の推進

こうした本市の総合計画の方向性は、今般急速に取り組みが加速している、国際社会全体の開発目標であるSDGsの目指す17の目標と、スケールは異なるもののその目指すべき方向性は同様であることから、本年5月、「都留市SDGs推進方針」を策定し、総合計画の取り組みの実践を通じて、SDGsの達成に貢献していくこととしました。本年6月には、事業を通じて社会的な課題を解決することで、地域社会の発展とSDGsの達成に向けて取り組んでいる富士急行株式会社様と「都留市と富士急行とのSDGs推進に係わる連携協定書」を締結したところです。今後は、地域のより一層の活性化を目指し、観光・産業・移住定住・教育・環境などの分野で様々な連携事業を実施していきます。

このほか、最近のトピックスとしては、働き方の変化や働く場所のニューノーマルに対応す



オンラインで行われたセーフコミュニティ認証取得に向けた現地審査

ることが、本市の大きなチャンスと捉え、本年7月に「都留戸沢の森和みの里」に隣接した市有林内に、「ワーク（仕事）」と「バケーション（休暇）」を両立した施設となるサテライトオフィス「THE FOREST」を官民連携によりオープンさせ、既にリモートワークにより多くの方が新しい働き方を実践しています。

また、長期総合計画の中期基本計画期間も、令和4年度をもって終了することから、後期基本計画の策定時期を迎えておりますが、本市の将来像「ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる」の実現に向け、今後も市民の皆さまに寄り添い、市民一人一人がいきいきとした気持ちで、すこやかな日々をはたらつと過ごせる、「誰一人取り残さないまち」を目指してまいります。

市町村リレー

まちづくり 夢づくり

大月市 47

MACHIZUKURI
YUMEZUKURI

ひとつと自然をいかし、
希望のもてる未来を
みんなで実現していくまち 大月



秀麗富嶽十二景の8番山頂 岩殿山から望む富士山

大月市は、山梨県の東部に位置し、首都東京は東に約75km、県都甲府市は西に約35kmの距離にあり、両都市圏とは市の南部を東西に走るJR中央本線、中央自動車道、国道20号の幹線交通網で繋がっており、また、これらの交通網と交差する国道139号や都留市・富士河口湖町へ向かう富士急行線などの分岐

点に位置し、古くから交通の要衝となつています。

市域は、北・東・西に頂点を持つ概ね三角形で、東西に27・1km、南北に19・8km、面積は280・3km²と県内でも五番目の広さを有しております。この面積の内87%を森林が占めており、1,000mから2,000m級の緑

豊かな山々や、市の南部を流れる桂川や笹子川、それに繋がる大小さまざまな支流が市内の随所を流れ、豊かな自然環境に恵まれています。

桂川と笹子川の河川沿いに広がる河岸段丘に古くから集落が形成され、甲州街道の宿場町として、また、養蚕・絹織物の特産地として発展してきました。

昭和29年8月に北都留郡の大月町、猿橋町、七保町、梁川村、初狩村、笹子村、賑岡村の3町4村が合併し、山梨県で6番目の市として市政が施行され、翌9月に富浜村を合併して現在の大月市となりました。

便利で賑わうまちづくり

本市は、森林・原野が全体面積の約9割を占め平坦部が極めて少ないことから、宅地や農用地などは河岸段丘や山裾の傾斜地にまで広がっています。

また、市街地は笹子川および桂川沿いに帯状に連なっているため東西に細長く、JR中央本線の6駅を中心に分散しています。



日本三奇橋の一つ 名勝猿橋

このような中、市街地に隣接する形で、民間事業者等により丘陵地の農地や山林への大規模な宅地開発が行われてきました。

その一方で、住宅と工業施設・商業施設などの土地利用の混在がみられ、これらは地形的な制約等から道路の幅などの整備が進まず、合理的な土地利用がなされておらず、道路や排水路など都市基盤が整っていない地域においても、無秩序に宅地化が進行した経緯もあります。

近年では、少子高齢化の影響により、市内全域において空き家や未利用の土地が急速に増加しているため、それぞれの地域に応じた土地利用や人口減少に合わせた都市機能の集約化を計画的に進めるとともに、土地利用の基本方針に沿った快適な市街地の形成や自然環境の保全などに努める必要があることから、平成29年3月に「おおつき創生都市計画マスタープラン」を策定しました。

この中で示した将来のまちづくり方針・全体構想（コンパクト及びネットワーク都市構造）に基づき、人口減少及び少子高齢化の進展に対応するため、本市の特性に応じた持続可能な都市構造構築の実現に向けて、JR大月駅、JR猿橋駅、JR鳥沢駅を中心とする拠点地区において、居住誘導区域及び都市機能誘導区域の設定、誘導施設の整備方針、公共交通ネットワークとの連携によるまちづくりの方針等を示す

「大月市立地適正化計画」を平成30年3月に策定し、「おおつき」らしさを活かしたコンパクトなまちづくりを推進しております。

現在、大月駅北側の大規模未利用地の整備推進のため、進入路の拡張に向けた準備を進めております。

関係人口及び

交流人口の創出・拡大

自然観光資源、歴史資源に恵まれ、また東京近郊に位置する本市には、自然の豊かさや安らぎを求め、多くの都市住民が訪れています。近年では、体験・交流型の観光が人気であり、以前から鮎釣りや渓流釣りなどで多くの人々が訪れておりましたが、最近ではラフティングや農業体験など新たなフィールドも加わり、さらなる誘客が期待されています。

さらに国の観光戦略や富士山の世界文化遺産登録などの好影響により、大月駅を利用する外国人観光客は増加傾向であります。



桂川での鮎釣り

しかしながら、本市を通過してしまう観光客や通過点の一つとして短時間滞在する観光客も多く、それらの人々をいかに滞在させ、観光消費につなげていくかが課題となっています。

この様なことから、市内を通過するだけの方や訪問者に対して、滞在時間及び地域内消費の拡大、交流・関係人口の創出、移住・定住の促進を図る取り組みとして、地方創生推進交付金を活用した「大月市滞在価値創出事業」として、大月桃太郎伝説をローカルブランドとして確立し、インバウンドに対応したシティブロモーションの展開を図っております。

また、JR大月駅前に設置している大月市観光案内所を改修し、市内の農



大月駅前の大月市観光案内所

産物及び加工品並びに近隣市町村や県内の物産品を販売し、本市での地域内消費の拡大を図っています。

さらに、観光・移住等相談事務所「つきの駅」を開設し、観光案内、移住相談、大月体感萬（よろず）ツアー（移住ツアー）の受付、空き家・空き店舗情報の紹介、市民農園、貸し農地の紹介等、本市に関する様々な情報と魅力の発信を行っております。

大月桃太郎伝説による

地域活性化

「桃から生まれた桃太郎が、犬、雉、猿をお供に鬼退治をする。」誰もが知る日本のおとぎ話「桃太郎」の由来となる伝説が本市においても古くから語り継がれています。

本市から旧甲州街道を上野原市に向かうと、猿橋宿・鳥沢宿・犬目宿と桃太郎の従者の名前が続ぎ、市内には九鬼山・百蔵山（ももくらさん）・鬼の杖・鬼の立石・鬼の血・鬼の岩屋・鬼の盃など「桃太郎」にまつわる地名や史跡があります。

この「大月桃太郎伝説」を活用するため、大月市観光協会や市民グループ「大月桃太郎連絡会議」と連携し、PR及びイベント事業等に力を入れており、桃太郎伝説が残る岡山県などの研究団体が集結する「桃太郎サミット2021 in 大月」が、令和3年10月16日に本市において開催予定となっております。

また、令和3年1月28日に本市と大



大月桃太郎伝説とローソンのコラボ モモタローソン

月市観光協会は、山梨のいいものいいことを女子目線でプロデュースして広く発信することを目指す女子大生グループ「モモハナ」と、大月桃太郎伝説の活用をはじめとした相互連携と、より一層の活性化に取り組むことを目的とした協定を締結しました。

その中で「モモハナ」デザインの「大月桃太郎伝説のキャラクター」を、今後、活性化を目的としたシティブロモーションや観光振興、市政の情報発信などに活用させていただけることになり、令和3年3月5日にはそのキャラクターラッピングを施したモモタローソン（ローソン大月1丁目店）もオープンし、きびだんごなど桃太郎関連の商品を販売しPRしております。

さらに、令和3年4月1日に本市産業建設部産業観光課の別称として「大月桃太郎課」を発足し、「大月桃太郎伝説」を活用したシティプロモーションを推進しております。

グリーンワーケーション

新型コロナウイルスの出現により、New Normal（新しい生活様式）が求められるようになり、テレワークなどの在宅勤務や企業のリスク回避によるサテライトオフィスの設立など社会情勢が大きく変革しようとしている中で、都心から電車で1時間という地理的な優位性を生かして、都市と地方の双方に生活と仕事の拠点を持つ「2拠点居住」の推進に力を入れており、山梨県とのデュアルベースタウン研究会の設立に併せ、市内の職員から選出した構成員による「グリーンワーケーション大月研究会」を設置しました。この研究会では、外部人材をアドバイザーとして委嘱し、提案をいただきながら、本市における仕事と余暇の充実を図ることが出来るワーケーションを中心に、「物流と人流のハブ」としての特徴を生かした施策を検討しております。

現在、お試し利用の役割を兼ねた拠点とするため、JR大月駅に程近い遊休施設の浅利教員住宅を、ワーケーション施設へと改修を進めており、今後、移住定住につなげていきたいと考えております。

※グリーンワーケーションとはグリーン（自然）ワーク（仕事）バケーション（余暇）を合わせた造語です。

官民連携の推進

市民生活の向上や社会問題の解決に向けた民間企業との事業創造の推進を目的として、令和元年12月25日に「企業のを町づくりに活かす」を経営理念とし、日本全国で様々な自治体に政策と融合する民間事業を提案する株式会社官民連携事業研究所と連携協定を締結しました。

そして、官民連携事業研究所を通じて、複業マッチングプラットフォーム「複業クラウド」を展開する株式会社 Another Works と連携協定を締結。行政に複業人材を登用する実証実験を開始し、広報アドバイザー3名、マーケティングアドバイザー3



オンライン会議ツールでの複業人材任命式

名、DXアドバイザー2名の登用を決定し、令和3年5月19日に任命式を執り行いました。

プロジェクト期間である5月から12月までの7ヶ月間、プロフェッショナルの複業人材を登用することでまちおこしの契機とし、地域活性化に繋がるよう取り組みを進めております。

結びに

昭和30年に41,412人だった本市の人口は、地場産業であった繊維工業や中小企業の衰退、都市圏への人口流出、出生者の減少などにより、令和3年4月1日現在22,962人と大きく減少し、少子高齢化の中で大変厳しい行政運営を余儀なくされております。

平成27年に策定した「大月市人口ビジョン」で定めた2040年の目標人口19,000人の将来展望を実現するため、都市圏へのアクセスが良好である地理的な優位性や、豊かな自然環境などの地域資源を活かした様々な施策に取り組み、まちづくりの将来像である「ひとと自然をいかし、希望もてる未来をみんなで実現していくまち 大月」の実現に向け、市民と行政が互いに情報を共有し「信頼と協働」を構築する中で、市民と行政が一体となつてまちづくりを進めてまいります。

森と共に生きる豊かなまちづくり

振り返ると2020年5月に移住

してきてから、南都留森林組合所属の地域おこし協力隊として林業や山のことを学び、みるみるうちに森の魅力にはまり飛ぶように過ぎた1年でした。前職は10年近く国際協力に携わり、開発途上国の課題解決に取り組む仕事をしてきました。2019年秋に帰国した東京での生活はいろいろな意味で違和感を覚えずにはいられません。満員電車で揺られての通勤、コンクリートだらけの街並み、駅から下を向いてひたすら前に進む人の波。このままの生活を続けていていいのだろうかという疑問が日々大きくなっていく中、地域おこし協力隊の求人サイトを見つけました。前職で培ってきた国際協力の経験は、途上国だけではなく、日本の地方でも生かせるのではないかとという考えが頭に浮かんでから、南都留森林組合の戸を叩くまでに1か月もかかりませんでした。

私は静岡出身で、元々山梨は緑豊かな自然や温泉を満喫しリフレッシュするところというイメージでしたが、住んでみて改めてその素晴らしさを実感しています。特に都留市は豊富な湧水が町を流れ、市の面積の約8割を占める森林が人々の暮らしのすぐ近くにあります。

南都留森林組合は、職員たったの12名で、都留市、道志村、西桂町、上野

苦言 提言

Kugen Teigen

辻 康子

Yasuko Tsuji

南都留森林組合 地域おこし協力隊



原市秋山地区の森林整備に一年中奔走しています。従来の森林整備に加え、子どもを対象とした森林環境教育や、一般の人々に一年かけて林業を学んでもらう『都留市森の学校』の運営など、業務は多岐にわたります。私は林業の知識も経験もゼロの状態での世界に飛び込んできましたが、同僚と山に入り林業という仕事を垣間見る中で、その大変さと尊さを実感しています。

木材生産はもとより、水源涵養や土砂崩れなどの災害予防、生物多様性の保全、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の抑制、そして訪れた人々の心とカラダを癒す働きなど、森は多くの役割を担っています。これらの多様な機能は、継続的で適切な森林整備がなされて初めて発揮されます。日本人が森と共に生きてきた歴史を考えると、健全な森がなければ持続可能で豊かな暮らしは実現しないかもしれません。

しかし、残念ながら多くの人は、その価値や役割に気づいていません。森に目を向けることがないどころか、心無い人によるゴミの投棄なども多く見られます。また、私自身にとってもそうであったように、多くの方にとつて『林業』という仕事はあまりにも遠い存在です。林業従事者たちが森を守るために日々どれほど汗をかき手間をかけ、危険をも顧みず、森を育てているのかということはあまり伝えられていません。

あらゆる価値観が変化しているポス

トコロナの時代とともに、持続可能な社会への変革が求められる中、山や森、林業の役割とは何でしょうか。

気軽さや便利さだけが求められるという一昔前とは違い、プラスチックよりぬくもりを感じる木製品、スイッチひとつで温まる石油ストーブより手間はかかるけれど環境に優しく、災害にも強い薪ストーブ、お膳立てされたツアーより労働で汗をかき達成感を味わう森づくりワークなど、『森と共に創る豊かな暮らしの価値』に気づき始めている人々が増えています。

今、私たちは都留市と連携し、林野庁が推進している森林サービス産業の準モデル地域として、企業を対象とした新たな森づくりワークプログラムを創り、『森と共に生きるまち』を提言します。従来の木材生産中心の林業と併せて、多様なニーズに応える森林サービス産業としてのビジネスモデルを構築し、持続可能な林業を確立していく必要があります。

山梨県民の多くが「山しかない」と言いますが、山梨には山と豊かな森があり、現代社会の新たなニーズに応える貴重な資源が溢れています。山や森が持つ潜在的な能力を最大限に活用し、既存のあらゆる産業を森と結びつけ、他県にはない山梨らしい森林サービス産業を育てていくためには、自治体や市民の皆さんの理解、そして山にかかわるすべての人々のパートナーシップが不可欠です。